

年頭所感

2011年の活動に向けて

嶺重 慎（会長・京都大学大学院理学研究科）

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

年の初めにあたり、会長として、ひとこと今年にかける思いを書かせていただきます。

まずは、今年の最大の思い出を書きます。最近、ユニバーサルデザイン天文教育活動の一環として盲学校を訪問し、宇宙や星について話をする機会が増えてきました。昨年2月に都立文京盲学校を訪れたときのことです。NHK ラジオの取材が入りまして、レポーターの方が、授業後、生徒にインタビューしたテープを聞くことができました。

「天の川って（ことばは知っていたけど）本当にあるんだ」

といった感想を述べた生徒に混じって、

「（宇宙の話を知ると）明るくなる」、と語ってくれた全盲の女子高校生がいました。正直、とても嬉しかった。「天文をやっていると、本当によかった」とつくづく思いました。

皆さんも、ちょっと考えてみたらすぐおわかりと思いますが、物理や数学の話を知って、「おもしろかった」とか「わかりやすかった」と言われることはあっても、決して「明るくなった」とは言われられないでしょう。「宇宙には人を明るくする魅力がある」、いや、魅力ということばではものたりないなら、「宇宙には人を明るくする確かな力がある」といったほうがいいかもしれません。読者の中にも、この私の思いに共感してくださる方が多数おられると思います。

今年も多くの活動を計画（あるいは既に実行）されていることと思います。「宇宙は楽しい」という思いを、一人でも多くの方と共有していきたいものです。

楽しい思い出ができれば、ぜひ「天文教育」誌に投稿してください。そして、さらに多くの方と楽しさを共有しましょう。

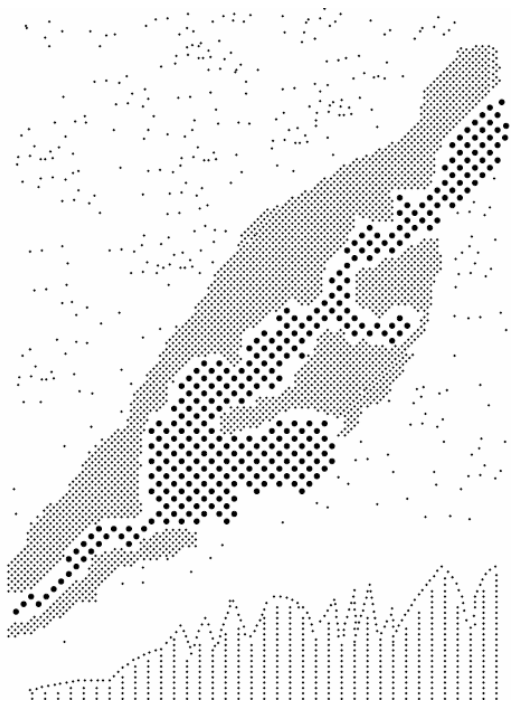


図 天の川の点図（久部悦子氏作；マルチモ一ダル図書『天文学入門』から転載）
星を小の点で、暗黒星雲を大の点で表した。

嶺重 慎